

「希望」を生きる聖年。閉幕から始まる使命



聖年閉幕ミサ

前田万葉大司教は説教の中で、2025年の通常聖年が「聖家族として希望の巡礼」をテーマに始まり、巡礼指定教会への巡礼、さらには他教区・他国への巡礼を通して、全免償の恵みに与ったことへの感謝を述べられた。また、大阪・関西万博と連動した芸術・音楽企画が、新しい福音宣教の機会となったことにも触れられた。さらに、ともあゆの希望の旅や聖家族、去年今年貫く棒やシノダリティと詠み、シノダリティ…

2025年12月28日、大阪高松カテドラル聖マリア大聖堂において、聖年閉幕ミサが挙行された。当日は1,000人を超える信徒が参集し、聖年の恵みに感謝をささげつつ、厳粛にミサが執り行われた。聖堂内は小聖堂や右近コーナーに至るまで会衆で満たされた。



閉幕コンサート(玉造教会)

すなわち、家族としてともに歩むこと…の実践へと招き、シノドス(ともに歩む教会)の完成への希望を示された。

ミサの最後には、聖年の恵みに感謝して賛美の賛歌「テ・デウム」が歌われ、全教会とともに深い感謝がささげられた。

ミサ終了後には、聖年閉幕コンサートが開催された。大司教の挨拶に続き、12組の有志により、聖年の閉幕に感謝をささげる楽曲が披露された。独唱や器楽演奏、また団体による合唱など、さまざまな形で、聖年の恵みへの感謝が表現された。



ミサ後の鏡開き(桜町教会)



聖年コンサート(大阪高松聖マリア大聖堂)

聖年万博委員会

一年の活動

2025年は、通常聖年(以下、聖年)と2025年日本国際博覧会(以下、大阪・関西万博)が重なり、大阪には国内外から多くの巡礼者が訪れる年となった。

「希望の巡礼者」をテーマにした聖年の歩み

聖年は、2024年12月24日にバチカンのサン・ピエトロ大聖堂の聖なる扉が開かれることから始まり、2026年1月6日に聖なる扉が閉じられるまで、「希望の巡礼者」をテーマに、癒しと救いの一年として行われた。地方教会では、聖なる扉の開扉を受け、2024年12月28日に聖年閉幕ミサを、聖なる扉が開扉前の2025年12月28日に聖年閉幕ミサが捧げられ、教区における聖年が終了した。大阪・関西万博は、

「希望の巡礼者」をテーマに、癒しと救いの一年として行われた。地方教会では、聖なる扉の開扉を受け、2024年12月28日に聖年閉幕ミサを、聖なる扉が開扉前の2025年12月28日に聖年閉幕ミサが捧げられ、教区における聖年が終了した。大阪・関西万博は、

けることとした。



委員会では、聖年の喜びを実感できるように、教区内19カ所の教会を巡る巡礼企画を実施した。指定教会では、巡礼者を出迎える工夫がされていた。聖年閉幕ミサまでに、428人が全19カ所を踏破して巡礼証明書を手にした。聖年の大きな恵みと各教会での温かいおもてなしにより、巡礼手帳を持っている人も見受けられた。

聖年の閉幕および閉幕のミサの際には、有志によるコンサートも行われた。また、5月31日には青年による聖年のためのコンサートが実施され、聖年の期間中、カテドラルでは多くの歌声による祈りがささげられた。また、演奏会も開催された。12月20日には、バチカンパビリオンアンパサダーを担った、指揮者の西本智実さんが、合唱団とオーケストラとともに聖年コンサートが開催された。

バチカンパビリオンと信仰文化の発信

大阪・関西万博のバチカンパビリオンは、結果的に連日待ち時間が2時間を超えるほどの盛況となり、万博会場の中でも注目を集めるパビリオンの一つとなった。カラヴァッジョ作「キリストの埋葬」をより深く知ってもらうため、5月10日と7月20日の二回にわたって講演会が開催された。また、「二十六聖人聖画等プロジェクト」と協力し、6月15日〜9月15日まで、カテドラルのパウロの部屋において、岡山聖虚作二十六聖人聖画のうち「聖ディエゴ喜斎」「聖フランシスコ吉」の原画展示を行った。これらの原画は、1931年に教皇ピオ十一世に献納されて以来、94年ぶりに日本へ里帰りすることとなった。万博会場から乗り換えなしで訪れることができる立地もあり、ある意味で大

聖年と大阪・関西万博が行われていた大阪には、多くの要人も訪れた。教皇大使フランシスコ・エスカラント・モリーナ大司教をはじめ、バチカンの聖年・万博総代表であるリノ・フィジケラ大司教、教皇代理としてピエトロ・パロリン枢機卿、さらにバチカン美術館館長のバルバラ・ヤッタ氏など、多くの方々がバチカンから来阪された。聖年と大阪・関西万博は終わったが、2025年の一年を通して与えられた大きな恵みと数々の出会いを大切に、これからもそれらが豊かに育まれていくことを心よりお祈りいたします。

聖年閉幕ミサ・コンサート



2026

発行所
大阪府中央区玉造2-24-22
カトリック大阪高松大司教区
広報委員会
郵便番号 540-0004
TEL (06) 6941-9700(代表)
TEL (06) 6946-3223(直通)
FAX (06) 6946-3224(直通)
E-mail: kyokuh@ostk.catholic.jp
編集 広報委員会
発行人 前田万葉

本紙「点訳版」「音訳」があります。〈無料〉
※ご希望の場合は下記まで申込み
「点訳版(点字本)」
教区報 ☎06-6946-3223(直通)
☎06-6946-3224(直通)
「音訳(テープ・デジ)」
山口さん ☎0798-22-1649

☆ 桜町教会創立70周年記念ミサ
☆ 門真教会創立70周年記念ミサ
☆ 池田教会(阿波)献堂式
☆ 司牧者からの一冊
☆ 諸宗教対話活動(第1回 第2回)
☆ 社会福音化部門基調講演
☆ 聞かせてください、神様と出合った時のこと
☆ ファミリーの集い
☆ 広報委員会へのEメールアドレス=kyokuh@ostk.catholic.jp

(3画) (2画) (5画) (4画)
『教区報』原稿、資料等の締切は前々月末です。

福者ユスト高山右近殉教者列聖祈願のつどい・ミサ

2月7日(土)
13:30~16:30

司式 前田万葉大司教
場所 サクラファミリア

灰の水曜日

2月18日(水)
【大斎・小斎】

四旬節愛の献金開始
四旬節中



ナショナルデー(大阪・関西万博)

コンカテドラル桜町聖堂 納骨者追悼祈念ミサ・墓参



2025年11月26日、桜町教会で開催された司牧者研修会において、帰天司教・司祭および納骨者追悼祈念ミサが行われた。前田万葉大司教のほかあわせて8人の司祭・終身助祭がともに司式されたミサには、約20人の信徒が参加した。



司教納骨所に眠る3人の司教へ献香

説教の後、聖堂の脇祭壇にある司教納骨所と四国カトリック会館地下聖堂にある納骨所での灌水・献香が行われた。ミサ後は四国カトリック会館での昼食会の後、解散となった。

前田大司教は説教で、朗読されたローマ人への手紙



納骨所で献香する大司教

の一節「生きるにしても死ぬにしても、私たちは主のもの」は信仰宣言で言えば「聖徒の交わり」であると説明され、11月を「復活のいのち信仰死者の月」と詠まれた。そして「聖徒の交わり」

とは、亡くなった人もこの世の人も神のうちに皆一つということであり、聖徒の交わり、罪の赦し、身体復活、永遠の命を信じる私たちは、死んでも慰めと希望を持つことができ、亡くなった後も、親や兄弟、友人、知人への恩返しなど、交わりを続けることができる」と述べられた。

(文 桜町教会信徒 長谷川 聖)

桜町教会 祝 創立70周年

つなごう 信仰のともしびを



記念ミサとともに祈る

桜町教会は1955年12月1日に番町教会(1921年創立)から分離独立する形で創立された。当初聖堂がなかったが1957年に現在の聖堂が献堂され、1963年の旧高松教区創立以降は司教座として、2023年の大阪高松大司教区創立以降は共同司教座として歩んでいる。

酒井司教は説教で、信仰のともしびをつなぐバトンタッチについて述べられた。私たちが持つバトンはイエス・キリストであること、また、バトンタッチではお互いのスピードを合わせる大切で、受け取る側である青年を信じて青年に委ねることを述べられた。



手話で「希望の巡礼者」を歌う

門真教会 祝 創立70周年ミサ



世代を越えて集った、門真教会70年の感謝

2025年11月30日にカトリック門真教会において、前田万葉大司教司式で小教区創立70周年を祝うミサが盛大に行われた。この日は待降節第一主日に当たりましたが、70周年の祝いとともに4人のこどもの初聖体も行われた。前田大司教は説教の中で、国

際色豊かな参加者に向かい、門真教会が(日本人もフィリピン人もベトナム人も、すべての国の人たちが共に歩むシノドスの教会を目指すよう励まされた。また、初聖体のこどもたちには、御聖体のなかにお

- ◆ 守護 聖マリアの汚れなき心
- ◆ 住所 門真市本町5-1-16
- ◆ 設立年月日 1955年
- ◆ 信徒数 472人
- ◆ ホームページ



門真教会 全体写真

門真教会は1955年にクラレチアン宣教会により設立されました。門真市は松下電器の街として発展し、教会設立当初は松下電器やその子会社で働く九州・特に長崎出身の信者さんが大部分を占めました。近年はフィリピン・ベトナム国籍の信徒も増え国際的な共同体となっています。

京阪電車門真駅から徒歩からほど近い商店街に面しており、隣りには大阪愛徳幼稚園があります。



盛り上がった。また、70周年の記念品として作成した「記念誌、カード、しおり、クリアファイル」を参加者に進呈した。

(文 桜町教会信徒 長谷川 聖)

小春日の初聖体や門真の子



ミサ後にはホールで祝賀会が開かれ、信徒の方々は、当日参列した懐かしい司祭・シスターたちと、この70周年の喜びを心ゆくまでわちあうことができた。

(文 しろきたブロック・モデラトル 長崎 壮)

門真教会紹介



教区内の司祭が記憶に残る、また心に残った書籍等を司祭紹介を兼ねて掲載。今回は、サワリムットウ・ステイフェン神父が担当。サワリムットウ・ステイフェン神父から

コロナ禍で教会に集まれなくなった際、YouTubeは信徒の心を繋ぐ「新しい祈りの場」となりました。日曜日のミサに行けない不安の中、司祭や修道者が配信を始め、信徒は画面越しに共に祈り、心で主を迎える「霊的聖体拝領」を通して神様との繋がりを保ちました。また、ミサだけでなく「み言葉の分かち合い」や聖書の勉強会も動画で行われるようになり、自分のペースで繰り返し学べることで、信仰を深める新たな機会が生まれました。

ているデンニ・ワユディ神父様は、YouTubeチャンネル(denny wahyudi)にて、毎日の「みことばの祭儀」の動画を配信されています。朝のミサに教会まで足を運ぶのが難しい方々にとって、特におすすめの内容です。

「みことばの祭儀」と検索すれば、どなたでもご覧いただけます。私自身もデンニ神父様に励まされ、現在は南インド料理の紹介だけでなく、「カトリック神父の日々の生活」というテーマで、教会の日常や信仰に関する動画をアップするようにになりました。新しい時代の宣教として、YouTubeでの発信を共に支え、分かち合いましょ。

動画を通じてみ言葉に触れ、信仰の喜びを一つにしていましょ。

現在は再び教会に集まれますが、YouTubeは病気が遠方で外出が難しい方々をも繋ぐ大切な窓口となつています。教会の壁を越え、私たちが「一つの大きな家族」であることを感じさせてくれる、素晴らしい道具として定着しています。

【プロフィール】

サワリムットウ・ステイフェン神父

2012年 終生誓願、助祭。
2013年 叙階式後、8月に初来日。
2015年 名古屋で日本語学校卒業後、福岡教区古賀教会で協力司祭(九州幼児教育センター・モンテッソーリ教員養成コースを卒業。
2018年 徳島地区一鳴門、阿南教会の担当司祭。



日々の祈りに役立つ YouTube チャンネルを、カトリック信徒の皆さまに向けて、いくつかのカテゴリーに分けてご紹介します。

【教区・教会の公式チャンネル】

多くの教区や教会が、主日のミサのライブ配信や、大司教・司祭によるメッセージを配信しています。カトリック何々教区か教会と調べれば出てきます。例えば①カトリック大阪高松教区と調べてください。

【講話・信仰理解を深めるチャンネル】

聖書解説やカトリックの教えを分かりやすく学ぶためのチャンネルです。

- ②カトリック聖パウロ修道会
- ③カトリック成城教会ビデオ配信
- ④カトリック都筑教会公式チャンネル

【社会との関わり・正義と平和】

カトリックの価値観に基づいて、社会問題や平和について考えるためのチャンネルです。

- ⑤カトリック正義と平和チャンネル

【世界の教会の動き(バチカン)】

⑥ Vatican News (特徴: バチカン「教皇庁」の公式ニュースチャンネルです。日本語の吹き替えや字幕の動画もあり、教皇様の活動や世界中の教会のニュースを知る。)



仕合わせになれ



12月7日、カトリック泉佐野教会は、コロナ禍以降初めてとなる満堂の熱気に包まれた。りんくうブロック3教会が合同で行う主日のミサ。聖堂に入りきれないほどの約200人が見守る中、19人が堅信の秘跡を受けた。

りんくうブロック堅信式

(泉佐野・貝塚・熊取教会)

前田万葉大司教の説教は、深い示唆に満ちていた。「受堅者よ仕合わせになれ待降節」大司教が詠んだ一句の「しあわせ」は、実は「仕合わせ」と書く。イエスが弟子たちの足を洗ったように、互いに仕え合うことこそが本当の幸せであり、最高の証しなのだというメッセージである。聖霊を受け、恐れずに外へ出て行った使徒たちの姿が、現代の若者たちに重ねられた。

式の終わり、証し人の手本として26聖人のカードが手渡された。堅信はゴールドではなく、大人の信徒としてのスタートラインだ。彼らが「仕合わせ」な道を歩めるよう、共同体全体でこれからも温かく、時に熱心に支え続けていきたい。

(文 泉佐野教会
ユース担当 池宮枝利子)

泉佐野教会 紹介

- ◆守護 無原罪の聖マリア
- ◆住所 泉佐野市市場南2-66-1
- ◆設立年月日 1953年12月
- ◆信徒数 719人
- ◆【特色】 2025年聖年の巡礼指定教会に選ばれました。広い駐車場など、設備が充実し利便性が高いのが特徴。次世代育成や外国人信徒との交流に力を入れ、地域に開かれた温かい雰囲気魅力です。



◆おすすめの店(場所)

「A大阪泉州直売所」こーたりくな」泉州産の新鮮な野菜や果物がそろった直売所。季節ごとの特産品に加え、犬鳴豚や手作り惣菜も人気です。ミサ後に立ち寄り寄る信徒も多くいます。

感謝に満ちて

12月21日、徳島県三好市の池田教会で、酒井俊弘補佐司教の司式による献堂式が行われた。六人の司祭と八つの教会から百人余りの人が参加した。



共に新しい歩みを踏み出した喜びのひとつ

朝から小雨が降っていましたが、午後一時からの式の前には曇空になり、全員聖堂の外に立ち、扉の鍵が建設者から司教の手に、そして主任司祭の手に渡されました。扉が開かれ聖歌を歌いながら中に入ると、十字架のイエス様の像と正面のステンドグラスの美しいマリヤ様が目に入ります。式は開祭、ことばの典礼、奉献の祈りと塗油、感謝の典礼と進み、教会が新しく誕生しました。「神様ありがとうございます。います」。建設にあたって多大なご尽力をいただきました。ゴンザレス神父様は、高齢で治療し



教会正面入り口

ながら、そして車の事故にも遭いました。それを坂出教会の方々が助けてくれました。私自身も高齢です。不安な気持ちでいっぱいでした。でも新聖堂でミサに与って体の中から元気ができました。教会に集う皆さま、神様を真ん中に、神父様を大切に、出会う一人ひとりを大切に、そして生かされている事に感謝して過ごしましょう。聖堂建設にご協力くださいました方々と、ここに集うすべての皆さまに神様の豊かな恵みがありますように。(文 池田教会 住吉 才子)

宗教間の出会いと学び



回を重ねるたびに理解が深まる

第2回は12月19日、大阪高松大司教区の司教館（玉造）にてプルハスタント・F神父（イエズス会）を講師に迎え、「一日五度、心を神に向ける」をテーマにイスラム教の礼拝（サラート）について学んだ。3年前に続く2回目のイスラム講話であり、今後も継続して学びの機会を設けていく予定である。サラートは日々神とのつながりを新たに営みであり、身体の動きや静けさの中に深い意味が込められている。参加者からの質問も活発で、イスラムへの理解が一層深まった。



諸宗教の対話は貴重な機会となる

第1回は12月6日、大阪市西区の白光真宏会大阪支部を訪ねました。白光真宏会とは1955年に五井昌久氏によって創立された新宗教で、国内外の平和を願う祈りを中心に活動している。岡本敬子支部長と会員の皆さまに迎えられ、祈りの実践、教えの背景、支部の歩みについて丁寧な紹介していただいた。カトリックの祈りの分かち合い、祈りの場の案内、質疑応答などを通して、平和への真摯な願いとその精神的基盤に触れることができた。

諸宗教対話委員会

訪問・講話

12月の二つの対話

2025〜26年度の諸宗教対話委員会の活動は、昨年12月に二つの特色ある企画から再開された。参加者が対話を通して理解を深める、貴重な機会となった。今回もカトリック信徒だけでなく、他教派のキリスト者や他宗教の方々も参加し、普遍的な広がりを感じる集いとなった。

訪問

いずれの企画も、誠実な対話と温かい交流に満ち、参加者からは「直接学べてよかった」、「宗教の多様性を身近に感じた」といった声が寄せられた。次回は2026年1月17日、大阪天満宮での訪問と対話体験を予定しており、さらに、2月には天台宗について学ぶ企画も検討しています。今後も宗教間の出会いを大切にしながら活動を続けていきます。

（文 諸宗教対話委員会委員長 ロッコ・ビビアーノ神父）

「性虐待被害者のための 祈りとつぐない」 第7回 テゼによる祈りの集い

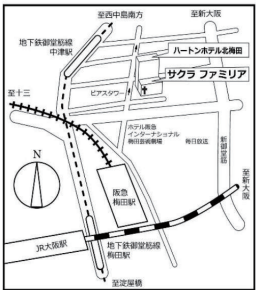
日時：2026年3月7日(土) 14時～15時
場所：サクラ ファミリア

(大阪市北区豊崎 3-12-8 TEL：06-6225-8871)

祈り：テゼと聖書による祈り

テゼの祈りは、短く覚えやすい祈りの歌を、何回も繰り返すことによって、心の奥にしみこみ祈り、体全体の祈り、人びとをつなぐ祈りとなっていきます。

教皇フランシスコは「性虐待被害者のための祈りと償いの日」を設けることを2016年に決定しました。日本の司教団は教皇の呼びかけにこたえ、その日を四旬節・第二金曜日に定め、教区では大司教が前後の日曜日にミサをささげるよう、よびかけられました。大阪高松教区としては被害者の皆さまの苦しみを受け止め、キリストの教会として誰もが大事にされ、安心できる共同体になるための集いの開催を望み、年2回祈りの集いを行っています。今年度も引き続き祈りの集いを企画しました。子どもと女性をとりまくさまざまな問題を通して「神からいただいたいのち」をもう一度深く味わい、人を傷つけ、いのちの輝きを奪うことのないよう謙虚な気持ちでたすみ、傷つき苦しむ人のいのちが再び輝きを放つよう祈る時間を持ちたいと思います。どなたさまも自由にご参加ください。



主催：カトリック大阪高松大司教区
ハラメント対応委員会
問合せ：教区本部事務局（06-6941-9700）

社会活動センター・シナピス（社会福音化部門事務局）

社会福音化部門のつどい



2025年11月22日、四国カトリック会館で「社会福音化部門のつどい」を行った。3連休の初日だったが、予想をはるかに超える40人以上が集い、盛会となった。

「もっと社会に関わる教会となるには」をテーマとした講話で、酒井俊弘司教は次の点を強調された。

①教会は社会の一部…教会の外へ、共同体の意識を地域社会へ開かない限り、社会からは認めてもらえない。②社会活動をする人たちが福音的になるう…社会の大きな問題を前に、大海の一滴として目の前の人に関わる自覚。その中で自分の内面は常に成長期で、福音的な社会活動は自分磨きでもある。③教皇フランシスコの遺産…すべてを解決できなくても、助けを求める人と同伴することで、ともしびとなる。④教皇レオ14世が目指すもの…主の声を聴き、互いに聴き合い、この対話の中で、主が私たちをどこへと呼びかけているのか見極める。⑤日韓司教交流会での李司教の説教…「船は停泊している時が最も安全だが、停泊するために造られたものではない。船は荒れた波を乗り越え、海を進むために存在している。港に停泊している船は決して目的地に達することはできない。何もしなければ何も起こらない。私たちは留まっていたはダメで、一緒に航海を続けなければならない」。

講話を受けた霊における会話は、自分のこと、教会や社会で感じることを率直に語る参加者の言葉によって、豊かな時間となった。

参加者からは「教会を通しての社会との関わり、つながりや働きかけの大切さを実感した。共に歩むことへ、自分なりの行動へと勇気をもらった」「多くの気づきと有意義なわちあいの時を過ごすことができた。このわちあいを活かした活動を、個人としても共同体としても、多くの方との交流の中で実現したい」という感想があった。

シナピスとして、今回、社会に関わる信仰を求める四国の皆さんと出会えたことは大きな喜びで、こうしたつどいを、高知や愛媛でも開きたいとの思いを強くした。

（文 社会福音化部門事務局 大森 雄二）

大阪・関西万博バチカンパビリオン

オリーブの木が大阪高松カテドラルに 寄贈 植樹



今回植樹されたオリーブと
聖年万博委員会委員長のヌノ神父

このオリーブの木は、バチカンパビリオンが内設されているイタリアパビリオン正面玄関で来訪者を迎え、夏以降は出口前に移され、来場者を見送るように植えられていた。

万博の閉幕にあたり、バチカンパビリオンは、このオリーブの木が平和と祈りの象徴として多くの人びと

2025年11月17日、日本国際博覧会（大阪・関西万博）バチカンパビリオンのオリーブの木が、大阪高松カテドラル聖マリア大聖堂前庭に植樹された。

に親しまれることを願い、平戸市と大阪高松教区に寄贈を申し出た。寄贈に際してはバチカンパビリオンとイタリアパビリオンアンバサダーを務めた指揮者の西本智美さんが尽力し、17日の教区での祝別式、18日の平戸市春日集落での植樹式にも出席した。

祝別式において大司教は、オリーブの木が根を張り、枝を伸ばし、豊かな実を結ぶとともに、多くの人の心にも平和と希望の実を結ぶことを願われた。

オリーブの木の祝福式の様子は、VATICAN NEWS（イタリア語版）でも取り上げられた。

詳細はQRコードを読み取って参照してください。



オリーブの木の寄贈に尽力された西本智美さん（中央）

ファミリーの集い
みんな みんな よっといで



カーザ・ファミリアで出会い・つどい・交流する

子育て世代の信徒同士、子育ての悩みなどを分かち合うことで、子どもとより良い関係を築きたい、という想いで分かち合いの会を始めた。子育て世代は、結婚、育児、仕事などで教会から離れがちになったり、小教区で同世代の信徒との交流ができないこともあるので、同じ信仰を持つ者同士の交流の場となればとも思っている。

普段教会に行けずにいる人がミサにあずかるきっかけになったり、子どもを連れて教会に行くと走り回るので周りに気を遣うという人がゆったりとミサにあずかれたり、子どもや青年が典礼奉仕を担当したり、各々にとって恵みあふれる子どもミサになった。また、青年たちがボランティアで子どもと遊んでくれて、子どもたちもとても楽しかったようだ。毎回来てくれている青年たちに心から感謝している。この集いでの出会いが、青年と子どもの鍊成会に参加したり、スタッフになったりと、繋がりが続いていくと感じる。以前は青年としてボランティアで来てくれていた人がママになって、分かち合いに参加してくれたり、世代が移りながら繋がっている。

教区の中で、小さい子どもを持つ子育て世代の集まりは他にあまりないので、今後もこの集まりを続けていきたいと思っている。

(文 島内ゆりな)

＊次回3月20日（日）14～17時に分かち合い＆夕食会の予定（子どもミサはなし）。子育て世代の親子、青年、夫婦などが中心ですが、それ以外でも参加可能！今から予定に入れておいてください。

宮城県仙台市の出身。私がカトリック幼稚園へ入園すると、園長先生が隣の教会の主任司祭だったこともあり、家族も教会と繋がるようになった。私が小学生の時に家族全員で洗礼を受けた。

母と兄は熱心に教会に通っていた。思春期の自分にとっては、家族がいる場所に行くのが嫌で、中高生になると部活も忙しくなり、自然に教会から足が遠のいた。

東京の大学に進学し、イグナチオ教会で毎週ミサに出るようになった。親元を離れて初めて、自分の信仰を考えるようになった。卒業後は企業に就職するが、毎日朝から晩まで働く暮らしに、孤独を感じた。表面的な人とのつながり、退屈なデスクワーク……このような日々を死ぬまで続けていくのだろうか。自分は何のために生きて

いるのかと考えるようになった。社会人になり現実を目の前にし、人生について深く考える機会が与えられることは珍しいことではない。ただ、私にとっては召命の転機となった。宗教学者の鈴木大拙が「心の平静が破られる経験というのが、神との出会いになる」と言ったように、今の自分と、こうありたいという自分の間に矛盾が生じ、自分の人生が自らのコントロールの及ばないところに来た時に、初めて私たちは謙遜したところを知り、神様が小さくなってくださることに気づいた。

人生の意味を考え始めたその困難な時、初めて神様から心に触れてもらった。そして、その神様との出会いの中で、「神は存在する」ということを、表面的な知識ではなく、実存の一番深いところで初めて確信し

た。同時に「私は神に深く愛されている」と実感した。私が生きているのは偶然ではなく、神様によって派遣されている。自分が何のために今この世に派遣されているのか、そこを問わなければ、「人生の生きる意味」を決して見出すことができないという強い確信だった。そして、修道者として生きる道を考え始めた。

仕事を辞め、召命の集いに参加した。いろいろな修道会の中でも、なぜかイエズス会の修道院は中が明るかった。食後の歓談の場に出されたビールを飲んだ瞬間、「自分はここで生きていくのか」と思い、イエズス会への入会を決めた。その後、担当司祭と相談し、1年間の識別期間を設けカナダへ行った。カナダでの生活は楽しく、刺激的で充実していた。この日々を手放すのが惜しかった。識別(Good to better)のものから、よりよいものを選び取るなかで、私は修道者への道を選んだ。

修道者になるという決断は簡単なものではないが、今、日本に戻らなければ、絶対に後悔すると思った。トロントの友人に別れを告げ帰国し、イエズス会の面接を受けると、入会が認めら

聞かせてください 神さまと出会った時のこと
～エマオへの道で～
第19回 渡辺 徹郎 神父
(イエズス会・六甲教会)

。同時に「私は神に深く愛されている」と実感した。私が生きているのは偶然ではなく、神様によって派遣されている。自分が何のために今この世に派遣されているのか、そこを問わなければ、「人生の生きる意味」を決して見出すことができないという強い確信だった。そして、修道者として生きる道を考え始めた。

仕事を辞め、召命の集いに参加した。いろいろな修道会の中でも、なぜかイエズス会の修道院は中が明るかった。食後の歓談の場に出されたビールを飲んだ瞬間、「自分はここで生きていくのか」と思い、イエズス会への入会を決めた。その後、担当司祭と相談し、1年間の識別期間を設けカナダへ行った。カナダでの生活は楽しく、刺激的で充実していた。この日々を手放すのが惜しかった。識別(Good to better)のものから、よりよいものを選び取るなかで、私は修道者への道を選んだ。

修道者になるという決断は簡単なものではないが、今、日本に戻らなければ、絶対に後悔すると思った。トロントの友人に別れを告げ帰国し、イエズス会の面接を受けると、入会が認めら

サクラファミリアで偶数月に開催中

「たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら何の得があるのか」
(マルコ8・36)

奉献生活の恵みを伝えてき



大阪高松教区司祭 小田武彦神父の母、マリア・テレジア・ヨアキナ小田英子さんは2025年12月28日、老衰のため帰天した。99歳。



1953年8月30日初誓願。ガラシア病院が阿波座にある時から厨房に勤務し、教会や司祭への奉仕、共同体の姉妹への奉仕をした。明朗活発、お話好きで、繰り返し若い姉妹に自分の召命のいきさつを分かち合い、奉献生活の恵みを伝えてき

1953年8月30日初誓願。ガラシア病院が阿波座にある時から厨房に勤務し、教会や司祭への奉仕、共同体の姉妹への奉仕をした。明朗活発、お話好きで、繰り返し若い姉妹に自分の召命のいきさつを分かち合い、奉献生活の恵みを伝えてき

1954年10月7日。初誓願宣立後、京都、久留米の養護施設で事務を、京都では施設長としても子どもたちのために尽くした。また、大阪、和歌山、熊本の信愛女学院で事務・会計として誠実に奉仕した。その後、世田谷では、晩寮(学生寮)で若い人たちの関りを大切にしながら寮長として努めた。2009年から仁川本部修道院で療養生活となったが、いつも頼智のきいた話しぶりで皆を笑顔にする楽しいシスターだった。

Srマリアアグネス市瀬キクエ(大阪聖ヨゼフ宣教師修道女会)は、2025年12月9日、ガラシア病院ホスピスで子宮癌のため帰天。93歳。長崎県出身。

Srテレジア西本フサ子(シヨファイユの幼きイエズス修道会)は、仁川本部修道院で老衰のため帰天。96歳。大阪府東大阪市出身。

1954年10月7日。初誓願宣立後、京都、久留米の養護施設で事務を、京都では施設長としても子どもたちのために尽くした。また、大阪、和歌山、熊本の信愛女学院で事務・会計として誠実に奉仕した。その後、世田谷では、晩寮(学生寮)で若い人たちの関りを大切にしながら寮長として努めた。2009年から仁川本部修道院で療養生活となったが、いつも頼智のきいた話しぶりで皆を笑顔にする楽しいシスターだった。

訃報

来見なさい



ヨハネ 1・46

※詳細は各主催者へ直接お問い合わせください。

教区委員会主催

諸宗教対話活動 2025年度
◆第4回 仏教との対話
「天台宗の基礎と特色」
日時 2/6 (金) 18:30～20:00
場所 教区司本部事務局 1階
おはなし 鍋島隆清副住職
(天台宗 本吉山清水寺)
主催・問 諸宗教対話委員会
☎06-6941-9700
✉ird-ecm@ostk.catholic.jp

福者ユスト高山右近殉教者
◆列聖祈願のつどい
【第一部】講演 デルカ・レンゾ神父(イエズス会・日本二十六聖人記念館館長)「右近の信仰・生き方が現代の私たちに伝えるメッセージ」
【第二部】列聖祈願ミサ
日時 2/7 (土) 13:30～16:30
場所 サクラ ファミリア
共催 列聖推進委員会・右近と歩む会
問 ☎06-6941-9700

サクラ ファミリア主催

聞かせてください 神さまと出会った時のこと～エマオへの道で【特別編】◆おはなし 西 経一神父(神言会)
日時 2/21(土)14:00～15:30

コレーン神父の聖書講座◆
「A年の主日のみことばに生かされる」
日時 2/9・3/9(月)13:30～15:00

和田幹男神父◆聖書研究講座「新約聖書概論」

日時 2/18・3/18(水)10:30～12:00

和田幹男神父◆新約聖書ギリシア語(初級)
日時 2/2・2/9・3/2・3/9(月) 17:00～18:30

祈りのよる◆灯りをかこみ、ともに祈る静かな時間を
日時 毎月17日19:00～19:30

問 サクラ ファミリア
☎06-6225-8871
✉f.sacra@ostk.catholic.jp
2/11(水・祝)・2/16(月)臨時休館

結婚準備講座

夙川教会
日時 2/7 (土)～2/28(土) 16:00～17:30
次回 3/1 (日)～3/22(日) 14:00～15:30
参加費 ¥5,000(2名)
問 ☎0798-22-1649

六甲教会
日時 2/1 (日)～2/22(日) 14:00～16:00 (4回)
参加費 ¥5,000(2名)
問 ☎078-851-2846
✉renraku@rokko-catholic.jp
※事前要問合せ(年2回)

黙想会

宝塚黙想の家
◆日帰り黙想会
日時 2/26(木)・2/27(金) 10:00～15:30
指導 染野治雄神父(2/26)

山内十束神父(2/27)
参加費 ¥3,500
◆一泊黙想会
日時 2/13(金)17:00～2/14(土)15:30
指導 染野治雄神父
参加費 ¥9,000

◆新約聖書の世界への旅
日時 第1(月)19:00～
指導 山内十束神父

◆祈りを深めるための聖書の基本
日時 第1・3(水)10:00～12:00
指導 山内十束神父
参加費 ¥1,000

◆カトリック教会のカテキズム
日時 第1・3(水)10:00～12:00
指導 染野治雄神父
参加費 ¥1,000

◆柱の黙想
日時 第2(木)10:00～12:00
指導 山内十束神父
参加費 ¥1,000

◆教会の教えと歴史
日時 第4(木)10:00～12:00
指導 山内十束神父
参加費 ¥1,000

問 宝塚黙想の家 ☎0797-84-3111

女子御受難修道会◆御受難兄弟会
日時 2/14(土)10:00～16:00
指導 來住英俊神父(御受難会)
参加費 ¥3,500
主催・問 女子御受難修道会
☎0797-84-7863 ☎0797-84-7864
締切り 2/11

講座・研修会

シノドス流の教会を求めて
◆シノドス最終文書と「新生の明日を求めて」の読書会
日時 2/21・3/21(土) 13:30～15:00
場所 四国カトリック会館
主催・問 四国カトリック会館
☎087-831-6659

絵本と聖書を語ってみましょう◆絵本と聖書の世界を身近に感じて活かす
日時 2/13・3/13・4/10(金) 19:30～21:00
場所 ZOOMオンライン開催(QRコードより入室)
主催・問 松浦信行神父
☎087-831-6659

日本カテキ斯塔会 公開講座◆
第二バチカン公会議公文書を学ぶシリーズ10『現代世界憲章』
講師 ①高見三明名誉大司教(長崎教区)・②中村倫明大司教(長崎教区)・③南野 森さん(九州大学法学部教授)
日時 3/6(金)13:00～17:30①②・3/7(土)10:00～13:10③(ミサあり)
場所 サクラ ファミリア
参加費 両日参加 ¥2,500・3/6のみ ¥2,000・3/7のみ ¥1,500
主催・問 日本カテキ斯塔会
✉nckkate@gmail.com
☎090-8119-4494
締切 2/28

講座◆小さくされた人々のための福音
日時 第3(金)10:00
場所 神戸学生青年センター
参加費 ¥1,000
主催 神戸国際支縁機構
問 岩村 ☎070-5045-7127

集い

大阪JOC◆働き方や生き方について現状から共に考える15～35歳までの若者の集い
日時 第2(土)14:00～16:00
場所 大阪YCWセンター(またはZoom)
問 レネ神父・水元
☎072-232-8063
✉osakaycw@gmail.com
HPhttp://www.ycw.jp/

要約筆記グループ“エッファタ!”練習会◆教区ミサに要約筆記(文字表示)をつけるボランティア
日時 第2(日)19:00～21:00
場所 オンライン・パソコン使用
問 障がい者委員会

✉dis@ostk.catholic.jp
精神・発達症(障害)者自助グループ◆オリーブの集い
守秘義務と分かち合い
いつ来てもウェルカム
当日キャンセルOK
日時 第3(日)14:00～16:00
場所 姫里集会所
参加費 無料(12月のクリスマス会だけ実費)
申込 吉川まで
問 ☎☎078-583-2525
✉yassan.yoshikawa@nifty.com

点訳ネット「レジナ」◆勉強会
対象 パソコン点訳に関心のある方、視覚障がい者の情報共有に関心のある方
日時・場所
奇数月 第2(火)13:30～15:00 姫里集会所
偶数月 第2(水)13:30～15:30 北須磨教会
申込 笠松まで
問 ☎090-5661-4324
☎072-722-0271
✉kasamatsu-yukisan@iris.eonet.ne.jp

聴覚障がい者ボランティア会◆聖書の手話表現の学び・教区活動の手話通訳者派遣
対象 手話に興味をお持ちの方 ※手話講習会ではありません
日時 第1・3・5(水)10:00～14:00
場所 姫里集会所
問 障がい者委員会
✉dis@ostk.catholic.jp

マザー・テレサ共労者の集い◆大阪梅田教会
日時 第1(土)14:00
問 高塚 ☎06-6921-0693
◆加古川教会
日時 第3(火)13:00～14:30
問 森田 ☎079-426-5704

第4回 カトリック小学校フェア
参加校 アサンプション国際小学校・大阪信愛学院小学校・賢明学院小学校・香里ヌヴェール学院小学校・城星学園小学校・仁川学院小学校
日時 2/23(月・祝) 10:30～14:00
場所 サクラ ファミリア
申込・問
カトリック小学校フェア実行委員会
締切り 2/16
☎072-723-6150 (アサンプション国際小学校)

ひとりで悩まないで～私たちに聴かせてください～
カトリック大阪高松大司教区
ハラスメント相談窓口
※委員会はハラスメント全般を視野に入れることになりました。そのため、名称変更します。
電話番号:06-6941-9718
相談窓口受付時間
月・火・金曜日(祝日を除く)
午前10時～午後4時
あなたの悩みを親身になって受け止めます。秘密は必ず守られます。

入居者、スタッフ募集
株式会社 ガラシア WINGS
サービス付き高齢者住宅
ドムス ガラシア
入居者を募集しております。また、看護師、介護職員を募集しております。皆様ご協力をお願い申し上げます。
☎ 06-4960-8020
✉ info@gratia-wings.jp
担当 奥本、濱口

案内・報告
主日ミサ時間変更
【玉造教会】※2月1日から
▽7時・10時(日本語)
▽13時・英語
▽15時・ベトナム語
▽17時・韓国語

2月司教予定
「行事等日程」以外
・2/8 和歌山紀北教会 堅信式(†S)
・2/21～22 NWM(ネットワークミーティング) in 大阪高松(†M・†S)
・2/26 愛徳カルメル200年記念ミサ(†M)
†M＝前田万葉枢機卿
†S＝酒井俊弘補佐司教

はばたき
1月11日は主の洗礼の祝日でした。1年前のこの日、中島町教会は聖堂耐震工事を完了と新司祭館および信徒会館落成を、前田万葉大司教様をお迎えしてお祝いしました。南海トラフ大地震で甚大な被害が想定される高知では、建物の耐震対策が急がれましたが、資金不足の問題などもあり、長期保留の状態からようやく実現した喜びの日でした。あれから1年、多くの皆さまのお祈りとご支援に支えられたことを、あらためて思い出し感謝いたしました。主の恵みを思い起こし、開かれた教会としての役割を果たしていくことができま

(高知地区 青野芳子)

行 事 等 日 程				
2月		16月	〔臨時司教総会〕(～20日迄)	
2月	主の奉獻	18水	灰の水曜日(大斎・小斎) 四旬節愛の献金(四旬節中)	
3火	福者ユスト高山右近殉教者			
4水	10時半 顧問会・責任役員会	25水	10時半 司牧者のための祈りと ゆるしの秘跡のつどい	
5木	日本26聖人殉教者 〔常任司教委員会〕			
		3月		
7土	ユスト高山右近 列聖を祈る集い	5木	〔常任司教委員会〕	
8日	新教会建設献金の日(献金)	6金	性虐待被害者のための祈りと 償いの日	
11水	世界病者の日			